【事業実績】

国内外から3名のアーティストを招聘し、精神性と「美」を問い直す展覧会を開催した。会期中は関連イベントとして、パフォーマンスやライヴ演奏、講演会などを行った。また、人材育成として、展覧会サポーターを一般から募集し、半年間かけて鑑賞プログラムの企画・準備に取り組んだ。

国内外で展開されるアートフェスティバルや市民参加型展示など、昨今の地方創生のうねりの中で芸術と社会とがこれまで以上に関わりを深め、芸術と経済とがより一層結びつきを深める現代において、改めて芸術の出発点、ひいては「美」の原点を見つめなおし、社会の中で芸術が果たしうる力について今一度、真正面から問い直す展覧会とした。

○関連イベント

(1)パフォーマンス「カット・ペーパーズ」

日　時：12月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日)
会　場：展覧会場
参加者：196人
内　容：静寂の中で40分間、はさみを使って紙を切り続けるパフォーマンスを行った。参加者はクッションに座ってじっと眺めたり、会場をゆっくりとまわりながら観るなどしていた。中には、目を閉じてハサミの音に耳を澄ませている参加者もおり、それぞれの見方でパフォーマンスを堪能していた。

(2)パフォーマンス「Drawing 14.12.2019」

日　時：12月14日(土)
会　場：エントランスギャラリー
参加者：60人
内　容：ペン100本と身体を用いた約5時間のパフォーマンスを行った。視覚から入る情報ではなく、身体の感覚を研ぎ澄まし、極限に迫ろうとするパフォーマンスは、見る者のココロを強く揺さぶった。パフォーマンス中は「あなたのココロに充ててください。」と書かれたメッセージとともにヘッドフォンが設置され、参加者はペン先から出る音に耳を澄ませていた。パフォーマンスによって出来上がった作品は展覧会場入口にて展示した。

(3)ライブ演奏「今石康ライブin九州芸文館」

日　時：12月14日(土)
会　場：アネックス1-A
参加者：53人
内　容：第1部4曲、第2部5曲のフォークソングを演奏。空間を切り裂くようなギリギリのファルセットヴォイスが会場内に響き渡った。参加者は演奏中、終始聞き入った様子で、今石氏の世界観に引き込まれていた。

(4)オープニング・パーティ

日　時：12月14日(土)
会　場：教室工房6
参加者：27人
内　容：招聘アーティストの三氏をはじめ、牛島氏や新庄氏などの協力アーティスト陣、講演会講師の福冨氏、デザイナーの三迫氏やカメラマンの長野氏、協力者でMEIJIKANオーナーの徳永氏、当日の観覧者など、本展覧会に様々に携わり、ご協力いただいた多くの方に参加いただいた。短い時間であったが、関係者が一堂に会した又とない機会とあり、

楽しい交流の場となった。

(5)元田典利パフォーマンス「工藤静香・加藤あい俳句、石橋秀野を読む」
日　時：12月15日(日)
会　場：九州芸文館、筑後広域公園、筑後船小屋駅
参加者：18人
内　容：前半は工藤静香や加藤あいといったアイドルへの思いを詠んだ俳句や俳人・石橋秀野の文章などを朗読。後半は展示していたバスタブに両親の介護写真やアイドル雑誌の切り抜きなどを入れて、九州芸文館周辺や筑後船小屋駅を歩いた。参加者も一緒についてまわり、その様子をじっと眺めていた。

(6)ウティット・アティマナ ディスカッション
日　時：12月15日
会　場：展覧会場
参加者：20人
内　容：ウティット・アティマナ主宰のディスカッションを開催。ディスカッションには美術家や和紙職人、宅老所の運営者、タイ文学研究者、通訳・翻訳家、来場者の方々など、様々な立場や考え方を持つ人が参加した。出品作品のテーマのひとつである「生活と創作」について、各々の考えを話す場となった。

(7)講演＋対談「タイの精神世界と芸術文化」
日　時：12月15日(日)
会　場：アネックス1-A
参加者：47人
内　容：タイの表現活動の背景にある社会状況や思想・文化について理解を深めるレクチャーを実施。福冨氏には、タイにおけるパフォーマンスアートや映画、音楽などの芸術表現について、社会背景と絡めながら話していただいた。また、ウティット氏には自身が過去に行なったアート・プロジェクトや根本的な思想などを話していただいた。国内だけでなくタイからの参加者もあり、ウティット氏の作品の根底にある問題意識を、深く理解する貴重な機会となった。

(8)公開制作とパフォーマンス
日　時：12月21日(日)、1月12日(日)、13日(月・祝)
会　場：九州芸文館、筑後広域公園、筑後船小屋駅
参加者：27人
内　容：工藤静香、加藤あいといったアイドルへの思いを綴った自作の俳句やジャック・デリダ（哲学者）、ゴッホ（画家）に関する文章を朗読したり、自身の出品作品について英語で解説（一部日本語あり）をするなどした。また、会場内に展示していたバスタブを２人で持って九州芸文館周辺や筑後船小屋駅を歩き、途中で駅や川の方を指差しながらその固有名詞を声に出すなどのパフォーマンスを行った。

(9)講演「ポスト・ポストモダンの美学：AIとネットと社会不安の時代の感情と知と芸術」
日　時：1月12日(日)
会　場：アネックス1-A
参加者：23人
内　容：1970～80 年代に盛んであったポストモダンの思想や美学の歴史について、デカルト（1596-1650）やカント（1724-1804）、ヘーゲル（1770-1831）、デリダ（1930-2004）とい

った哲学者を挙げながら紐解き、芸術の定義について触れるとともに、本展のテーマである「美」についての考察を話していただいた。複雑化する現代社会の中で芸術が持つ「多層性」を、本展参加アーティストの作品にも触れつつ、語っていただいた。

(10)展覧会サポーターによる鑑賞プログラム「リアクションブース」

日　時：会期中随時

場　所：ホワイエ

参加者：15人

内　容：展覧会サポーターが考案した鑑賞シートのはがきとペンを会場出口に設置した。来場者にアーティスト宛に手紙を書いてもらったり、本展の感想などを自由に寄せてもらった。ポストに投函されたはがきは掲示したり、SNS などでも紹介した。

(11)展覧会サポーターとめぐるギャラリーツアー

日　時：12月28日(土)、1月13日(月・祝)

会　場：展覧会場

参加者：27人

内　容：サポーターが作品の魅力や背景を話しながら、参加者といっしょに会場をめぐった。1 回目は初挑戦で緊張気味であったサポーターも、2 回目は肩の力が抜け、参加者との対話を楽しんでいる様子であった。参加者はサポーターの解説を熱心に聴きながら、本展のテーマである「美」について改めて考えてもらう機会となった。

○<u>展覧会サポーター育成プログラム</u>

日　時：①6 月 9 日（日)、②7 月 7 日（日)、③8 月 12 日（月・祝)、④9 月 8 日（日)、⑤10 月 6 日（日)、⑥11 月 10 日（日）

会　場：福岡県立美術館、九州芸文館、MEIJIKAN

参加費：無料

参加者：6 名

内　容：人材育成として、展覧会サポーターを一般から募集し、半年間かけて鑑賞プログラムの企画・準備に取り組んでもらった。公募の結果、大学生・社会人の計 6 名が参加。サポーターたちには福岡県立美術館での鑑賞プログラムを学んでもらったり、本展参加アーティストのトークなどを聞いてもらい、具体的にギャラリーツアーや鑑賞シートを準備した。

展覧会サポーターコメント：

・プログラムでは、全 2 回のギャラリートークを担当しました。トークは初めての経験で、緊張してうまく伝えられなかったこともあり、自身の中では課題が多く残るものとなりました。しかし、作品のより深くに触れることのできる機会を提供できたのではないかと思います。また、普段の展覧会では聞けないアーティストの声を直に聞けたり、より良い鑑賞について現役の学芸員の方たちと共に模索できたことは大変貴重な経験となりました。

・ココロ展のサポーターを経験して、それまで知らなかった視点を知ることができました。サポーターをする前までは、展覧会を見に行くというお客さんの視点しか知りませんでした。しかし、展覧会を作る側になってみて、どうしたらお客さんに楽しんでもらえるか、どうしたらお客さんの感じ方を狭めないかを考えながら展覧会をつくるのは、楽しくあり難しくもありました。とても良い経験ができたと思います。

・展覧会サポーターというプログラムに参加して、初めて展覧会がどのように作られていくのか知ることができました。特に印象的だったのは、企画を皆で考えるプログラムでした。「主催者側」の目線と「鑑賞者側」の目線のどちらも同じくらい意識しながら、企画を試行錯誤するのは、とても楽しかったです。良い案だと思っても、それが持つ利点と欠点を必ず考えて企画の主旨に沿うように考えるという社会に必須な能力を身につけることができたと思います。プログラムを通して非常に良い経験が出来ました。

ウティットの展示と会場の様子（教室工房 2）

元田典利展示会場の様子（教室工房 1・2 の間）

阿部幸子パフォーマンスと展示会場の様子（教室工房 1）

村田峰紀パフォーマンスの様子

今石康ライヴ演奏の様子

オープニング・パーティの様子

ウティット主宰、ディスカッションの様子

ウティット・福冨氏による講演＋対談の様子

元田典利パフォーマンスの様子

元田典利公開制作とパフォーマンスの様子

藤井雅実氏講演会の様子

展覧会サポーターによるギャラリーツアーの様子

リアクションブースの様子

人材育成プログラム講座の様子